

**新型コロナウイルス対応緊急支援助成
事業計画（実行団体）**

事業名(主)	八王子子ども食堂・ステージ2へ
事業名(副) <small>※任意</small>	より地域に密着したネットワークへ

入力数 主 15 字 副 16 字

実行団体名	一般社団法人フードバンク八王子
資金分配団体名	一般社団法人フードバンク八王子

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域	分野
<input checked="" type="checkbox"/> 1) 子ども及び若者の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/> ①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
	<input type="checkbox"/> ②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
	<input type="checkbox"/> ③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
<input type="checkbox"/> 2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ④働くことが困難な人への支援
	<input type="checkbox"/> ⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
<input type="checkbox"/> 3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ⑥地域の働く場づくりの支援
	<input type="checkbox"/> ⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	<input type="checkbox"/>
------------------------	--------------------------

入力数 0 字

SDGsとの関連

ゴール
_1.貧困をなくそう
_2.飢餓をゼロに
_3.すべての人に健康と福祉を

実施時期	2020年 11月 ~ 2021年 10月	事業 対象地域	<input type="checkbox"/> 全国 <input checked="" type="checkbox"/> 特定地域 (東京都八王子市)	事業対象者： (事業で直接介入する対象者と、その他最終受益者を含む)	貧困家庭と大学生	事業 対象者人数	のべで400人
------	-----------------------	------------	---	---------------------------------------	----------	-------------	---------

I.団体の社会的役割

(1)申請団体の目的
食の支援を通じて、あらゆる人の社会的孤立を解消し、東京都八王子市に地域共生社会を作り上げること。
(2)申請団体の概要・事業内容等
<ul style="list-style-type: none"> 八王子市生活自立支援課と連携して、八王子在住の困窮者に向けて食糧支援 八王子市子どものしあわせ課から「八王子食堂ネットワーク」を事業委託（ただし、本事業計画で立案している内容は、この委託事業の業務仕様外のものである） 主に精神障害者を対象とした障害者の就労支援 地元の商店街と連携して、様々なイベント企画や実行 東京都立大学・子ども若者貧困センターと連携して、社会政策や貧困などに関して研究活動

II.事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題
<p>今回のプロジェクトのターゲットとしては、困窮家庭（主に母子家庭）と大学生を想定している。元々、彼らは経済的に脆弱であり、コロナ禍によって、仕事を失う、仕事を減らされる、他の仕事に就けない（新一年生の場合は仕事を始めることができない）等が生じた結果、経済的にかなりの打撃を受けている。</p> <p>この危機的な状態は、私たちが実施している食糧支援の対象層からのヒアリングで実感しているところであり、更に、東京都立大学に対する食糧支援を通じて同様に実感している。都立大学では、人文学部野元教授を中心としたグループが、5月・6月には毎週150人程度、7月・8月でも毎週30人程度への食料配布を行い、受益者からのヒアリングを通じて、コロナ禍の影響が明らかになっている。</p> <p>以上の現状に対して、私たちにできることは、ごく限られている。最も必要なことは、彼らに就労の機会を提供することであるが、私たちができるのは、それ以前の段階になる。即ち、彼らに対する緊急食糧支援、そして何よりも社会的にも孤立した状況の彼らに対して、地域での居場所としての子ども食堂とつながる回路を構築することである。</p> <p>(*)ただし、大学が依然として、あるいはこれからも継続的にリモート講義をメインしていること（つまり学生が大学に行かない状況）などを考慮すると、大学生に向けたアプローチには限界があると言わざるを得ない。だが、ゼロではない。できる範囲のことを、状況を踏まえながら模索したい。</p>

入力数 (1) 48 字 (2) 202 字

入力数 621 字

III.事業内容

(1)事業の概要
<p>コロナ禍で深刻化した経済的苦境と社会的孤立に対して、子ども食堂を中軸として、次の五つのアクションを実行する。(1) 子ども食堂に向けた食糧支援ネットワークの拡大と寄付機能を備えたHPへの更新、(2) 子ども食堂へ結びつけるために母子家庭を中心とした困窮家庭への食料配送、(3) 子ども食堂へ結びつけるために大学生への食糧支援、(4) 子ども食堂の活動のレベルアップを図るために「事例(つまり食堂運営上のトラブル)研究会」の準備と開催。更に、今年度の異常さを記録に残すためにも、(5) コロナ禍の2020年度の八王子子ども食堂の現実をテーマとした報告書の作成。</p>

入力数 274 字

(2)事業実施後(1年後)以降に目標とする状態
<p>東京都八王子市での子ども食堂では、(1) 食堂活動とパントリー活動への両立支援が強化され、(2) 困窮家庭や大学生の居場所や食糧支援が拡大され、更に(3) 子ども食堂の運営者を孤立させないためのノウハウが蓄積・共有される。また、本事業では「マネタイズ・エンジン」を構築するわけではないが、寄付機能を備えたHPへ作り替えることで事業経費の安定的な確保に努める。地域企業との連携強化で好循環を生み出せるように。</p>

入力数 200 字

(3)今回の事業実施で達成される状態(アウトプット)	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
<p>(1) 子ども食堂への食糧支援ネットワークの拡大と寄付機能を備えたHPへ更新 (2) 困窮家庭への食料配送と子ども食堂への接続 (3) 困窮学生への食糧支援と子ども食堂への接続 (4) 「事例研究会」の活動記録。その実像は「食堂運営上のトラブル対応」なので、共にディスカッションすること自体に意味があり、そのプロセスの記録となる。 (5) 2020年度・八王子子ども食堂の活動報告書</p>	<p>(1) 食糧支援企業の数 (2) 食料配送の困窮家庭数と子ども食堂への接触回数 (3) 食糧支援の学生数と子ども食堂への接触回数 (4) 「事例」の内容の質と量 (5) 2020年度活動報告書</p>	<p>(1) (2) (3) については、左記それぞれの数のカウント (4) 「事例」については活動内容の記録 (5) 報告書については、その内容 (*) 寄付機能を備えたHPについては、寄付額など定量的な目標を立てることは難しいと判断している</p>	<p>(1) 食糧支援企業を5つ増加させる (2) 食料配送数をのべで300とする (3) 支援学生数をのべで50とする (4) 質の高い「事例」として練り上げる (5) 公表できる活動報告書</p>	<p>(1) (2) (3) (4) については、2021年10月までただし(1)のHP更新は4月まで(5)については、2021年5月まで</p>

(4)活動	時期
<p>(1) 子ども食堂に向けた食糧支援ネットワークの拡大と強化 — これまでつながりのある企業からの紹介や広報を通じた周知、イベントへの参加等によって、食糧支援企業を開拓し、寄付機能を備えたHPに誘導する。</p>	2020年12月～2021年11月
<p>(2) 子ども食堂へむすびつけるために母子家庭を中心とした困窮家庭への食料配送 — 19の子ども食堂のうち18か所が食料配布を実施しているが、それだけではカバーできない地域、層へアプローチをした食料配送を行い、子ども食堂の周知、利用につなげる。</p>	2021年4月～2021年10月(2回実施)
<p>(3) 子ども食堂へむすびつけるために大学生への食糧支援 — 大学生には今現在フードバンクとして食料支援を行っているが、地域の子ども食堂へ紹介することで、身近な場での食料支援と、運営者側への参加につなげ、地域とあまり接点のない学生の居場所ともしていきたい。</p>	2020年12月～2021年11月
<p>(4) 子ども食堂の活動のレベルアップを図るために「事例研究会」の準備と開催 — 2020年度コロナ禍の中での子ども食堂の活動は皆話合いと模索の連続であり、様々な事例が生まれた。それをお互いに報告、共有する機会を設け、コロナ禍後の活動を見据え、レベルアップにつなげていきたい。</p>	2020年12月～2021年11月(6回実施)
<p>(5) 2020年度・活動報告書作成 — コロナ禍の中での食堂開催、食料配布への取組み、模索しながら様々な経験をした2020年度の活動をまとめることで、自分たちの活動を客観的に見直す機会とし、また企業などの支援者へ配布し次への支援につなげることを目的とする。</p>	2020年12月～2021年5月

IV.事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	<p>全体を統括 代表理事 國本康浩 実行計画策定・実行責任 理事 川久保美紀子 実行補助 特定非営利活動法人地域の福祉と明日を考える会(お茶の間「民」)・特定非営利活動法人八王子子ども劇場 浅野理恵子 実行委員 里親ひろばほいっぷグループ(ほいっぷ食堂)坂本洋子、子ども食堂ふくろうはうす 細田明菜 事務管理 (策定中)</p>
(2)他団体との連携体制	<p>八王子食堂ネットワークに参加している団体(子ども食堂を運営)から上記の3名のメンバーが参加し、実行と全体の運営についてもアドバイスを受けながら実施する。 また(4)事例研究会では、子ども食堂を運営している団体に講師、参加者ともに呼びかけていく。</p>
(3)想定されるリスクと管理体制	<p>コロナ禍の中での実施なので、企業や食堂スタッフなどの方々と対面する機会には注意を払う必要がある。 特に事例研究会のような人が集まる場の設定については、密にならないなど十分配慮しながら、リモートでも参加も視野に入れて実施したい。 子ども食堂が今現在ボランティアの受け入れに消極的であり、大学生を運営者側として巻き込む際に注意と工夫が必要と考える。</p>

V.関連する主な実績

(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無				
コロナウイルス感染症に係る事業				
①本申請事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動を実施している(予定も含む)	有 <input type="checkbox"/>	無 <input checked="" type="checkbox"/>	有の場合 その詳細	
②本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金(ふるさと納税を財源とする資金提供を含む)を受けていない	無 <input checked="" type="checkbox"/>	※有の場合、選定の対象外となります(公募要領:助成方針参照)		
(2)申請事業に関連する調査研究、連携の実績				
<ul style="list-style-type: none"> ・東京都八王子市から「八王子食堂ネットワーク」の事業委託 ・2019年12月、2020年5月、7月に、およそ150世帯へ食料配送 ・2020年5月から東京都立大学への食料支援 				